

第1回きよせ環境みらいワークショップ 結果報告書

1. ワークショップの概要

日 時：令和6年11月30日（土）10：00～12：00

場 所：清瀬市しあわせ未来センター

2階ボールルーム

出席者：一般参加者12名

配 置：4名×3グループ（A・B・C）に分かれたグループワーク

※ 各グループに株式会社サンワコンのファシリテーターが加入

2. プログラムの内容

時間	プログラム内容
10：00 ～ 10：05	あいさつ、企画説明
10：05 ～ 10：20	環境に関する話題提供 （1）テーマ1（グループ別）「生活環境」「資源循環」「自然環境」 （2）テーマ2（共通）「環境教育・意識啓発」
10：20 ～ 10：25	アイスブレイク 参加者、ファシリテーター自己紹介
10：25 ～ 11：30	STEP 1 清瀬市の環境の現状 テーマ1、テーマ2について強み・弱みの意見出し
	班ごとに適宜休憩
	STEP 2 清瀬市の環境を今後、より良くするための課題について 現状・課題の整理・アイデア出し
	STEP 3 意見のとりまとめ 内容の分類と整理
	STEP 4 グループごとの発表・質疑応答
12：00	閉会のあいさつ 参加者アンケート・第2回ワークショップのお知らせ

3. グループの発表内容

第1回は、グループで異なるテーマについて①（「Aグループ：生活環境」「Bグループ：資源循環」「Cグループ：自然環境」）と、全グループ共通のテーマ②「環境教育・環境学習」について、清瀬市の環境の現状と課題を議論しました。グループごとに挙げた意見について以下に整理します。

A グループ 「①生活環境」「②環境教育・意識啓発」

■ 現状：テーマについて「強み」と「弱み」

①生活環境

➤ 騒音

－強み－

- ・ 静かなところであり、夜も静かである。

➤ 不法投棄

－弱み－

- ・ 河川敷のプラスチックごみ。バーベキューをできる場所があることで、ごみを片付けず捨てていく人がいる
- ・ 新しい住民等、人によってマナーが異なる。マナーを守らない人への周知・教育がされていない。
- ・ 戸別収集によるマナーへの影響。ごみ出しが楽になった反面、別の場所や曜日に出す人がいる。
- ・ 集合住宅のごみ搬出場所やごみの出し方で生物の生息域に影響を与えている。

➤ 水質等

－弱み－

- ・ 農家の人は水質汚染に気を付けていると思うが、一般人（知識を持たない人）が除草剤を排水することで、地下水が汚染されないか心配。
- ・ 大雨時の排水が悪いところがある。

➤ その他（自然）

－強み－

- ・ 人の手が付いていない自然が残っている。
- ・ まちの緑が多く、将来に向けて残したいと考えている大人がいる。
- ・ 柳瀬川がきれい。

－弱み－

- ・ 枯れ草が放置されている。清掃などの管理がされていない。
- ・ 畑が減っている。
- ・ 住宅地の緑地が減っている。開発により目に見える緑が減っていると感じる。
- ・ 運動できる施設が少ない。運動公園やジムが他のまちに比べて少なく感じる。

－強み・弱み－

- ・ タヌキ等の野生動物を見かける。生き物を見かけることができること自体は良いことのように思うが、野生動物の生息域が奪われていることを示唆している。

②環境教育・意識啓発

－強み－

- ・ 自治会や環境美化活動（落ち葉拾い）が、コミュニケーションの場になっている。

－弱み－

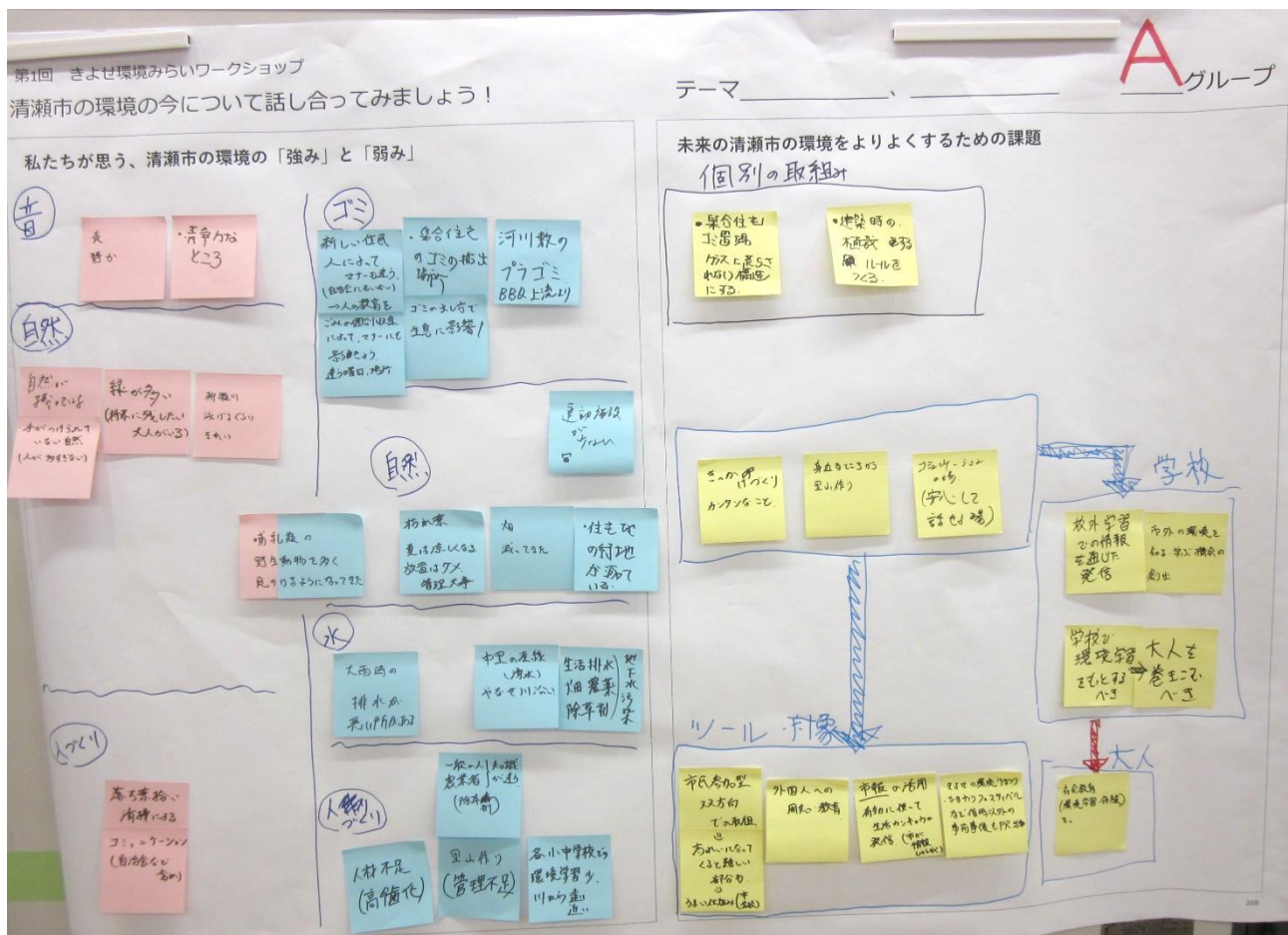
- ・ 高齢化により担い手、人材が不足している。
- ・ 各小学校での環境学習が少ない。河川からの距離によって環境学習への取り組みが異なる。

- ・ 里山づくりができていない。自然をただ残しているだけで、管理して残せていない。
- ・ 一般の人と農業者で知識が異なる。知識量によって、使用して良い農薬や除草剤の区別がつかない。

■ 課題：未来の清瀬市の環境をより良くするための課題

➤ 個別の取組

- ・ 生活環境改善
 - ・ 集合住宅のごみ置き場のカラス対策
 - ・ 建築時の植栽ルール
- ・ 仕組みづくり
 - ・ 活動のきっかけづくり
 - ・ 子供たちへの学習及び大人のための学習・体験
 - ・ 大人や学校等を巻き込んだ活動
 - ・ 市民参加型や双方向型の取り組み、市や学校との連携等のツールの活用・創出



グループワーク結果

B グループ 「①資源循環」「②環境教育・意識啓発」

■ 現状：テーマについて「強み」と「弱み」

①資源循環

➤ ごみ処理

－強み－

- ・ ごみ分別アプリが便利。ごみ捨ての区分が検索しやすくわかりやすい。
- ・ 秋に、落葉・落枝用のボランティアごみ袋を無料で支給している。
- ・ コロナ禍以前よりごみ収集の頻度が増えた。祝日も収集があるため、ごみ捨てが楽になった。

－弱み－

- ・ アプリの存在が周知されていない。アプリの案内をもらわないと知る機会がない。
- ・ ごみの名称やカテゴリーがわからない。アプリ上で名称がわからず検索できないことがある。
- ・ ごみ袋が値上がりしている。ごみが家庭よりも多く出る飲食店では特に厳しい。
- ・ 戸別収集が認知されておらず、ごみ捨て場まで持ち寄る人がいる。

➤ 不法投棄

－弱み－

- ・ 河川敷でごみが放置されている。バーベキューごみをそのまま残していく人がいる。個人での注意も難しい。
- ・ 不法投棄がある。雑木林に隣接した住宅地の奥に家電や粗大ごみが捨てられている。

②環境教育・意識啓発

－強み－

- ・ 柳瀬川を使った環境教育が盛んに行われている。川づくりの会による出前授業が行われており、そのための道具を民間企業が貸し出し・支援している。
- ・ 住民によるボランティア清掃では、学校をあげて取り組んでいるところもある。

■ 課題：未来の清瀬市の環境をより良くするための課題

➤ 個別の取組

・ アプリ

- ・ アプリの周知、分かりやすいアプリの導入

・ 不法投棄（河川ごみ）対策

- ・ 河川の整備やB B Q ごみの対策
- ・ 整備し綺麗で来やすい環境に

・ 人づくり

- ・ 清瀬の自然環境や自然に携わる人材の活用

C グループ 「①自然環境」「②環境教育・意識啓発」

■ 現状：生活環境の現状について「強み」と「弱み」

①自然環境、②環境教育・意識啓発

➤ 川

ー強みー

- ・ 柳瀬川の清流。昔は生活排水が流入していたが、公共下水道整備により綺麗な川になった。
- ・ 川を舞台としたイベント開催されている。祭りの舞台となり、祭りが環境教育の場として機能している。
- ・ 柳瀬川には多様な生物が生息している。カワセミ、アユ、ヤマメが生息しており、アユを捕って食べるイベントも開催されている。

ー弱みー

- ・ 空堀川は普段水が流れないため、干上がった魚の腐敗している。周辺では雑草が繁殖している。また柵が設置されており川に近づくことができない。自然を感じるができない。

➤ 緑

ー強みー

- ・ 近隣都市に比べて緑や公園が多い。大学構内の緑地や台田団地周辺の桜など、緑が豊富であるため、まちの魅力になっている。

➤ 農

ー強みー

- ・ 市内に多くの畑が点在している。
- ・ 農産物直売所が多く、市内各所にある。直売所ごとに特性があり、市民が使い分けて利用している。清瀬市が直売所マップを作成している。
- ・ 学校教育に農業体験があるため、農作物や花の栽培を通じた地産地消や、食の安全性について学習することができている。
- ・ 地域住民が学内で活動しており、地域の方とふれあう環境をつくりながら環境教育を実践することができている。

ー弱みー

- ・ 宅地化により畑地が減少している。
- ・ 休耕畑が市内に点在しており、手入れが不十分になるために、春先の風で土埃が舞い上がる。
- ・ 直売所マップの周知が不足している。
- ・ 学校によって農業体験の取り組みへの積極性が異なり、温度差がある。安全性重視の保守的な学校では取り組まれていない。

➤ 花

ー強みー

- ・ 花の名所や花壇が豊富である。(柳瀬川沿いのカタクリ、桜。松山界限のアジサイ。ケヤキ通りの花壇。下清戸のヒマワリ)
- ・ 農家が緑肥のために栽培したひまわりを活用した、ひまわりフェスティバルに観光客が多く訪れている。
- ・ シルバー人材センター等でまちなかの花の手入れや育成を手掛けている人材がおり、花のある環境を守る担い手になっている。

ー弱みー

- ・ 総体的にまちなかの花が少ない。花の咲く木本が少ない。

■ 課題：未来の清瀬市の環境をより良くするための課題

➤ 個別の取組

・ 農業

- ・ 休耕畑を有効活用する。(特産物栽培への活用等)
- ・ 農産物の栽培及び直売所等での販売のキャリア教育への活用。
- ・ コミュニティスクールの一環として活用し、児童と地域生産者の交流の場・食の安全安心理解の場とする。
- ・ 子育て世代、シニア世代への農業体験の取組。
- ・ 高齢者施設、障害者施設の方々の活躍の場として活用。
- ・ 直売所を活用したイベントによる、地元野菜販売や直売所の PR。
- ・ 消費者の声を生産者につなぐことによる生産者のモチベーションアップ。

・ 花

- ・ 公園の一部を活用した花壇づくり
- ・ 花の維持管理に係るボランティアの仕組みづくり
- ・ 花のある環境維持によるポイ捨ての減少



グループワーク結果